

B-1 活動計画と学習指導の工夫

次	活動計画	学習指導の工夫	子どもの様子や気づき
一 (一時間)	<ul style="list-style-type: none"> 世界の音楽を鑑賞する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> LD を使用しての鑑賞。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の映像に興味を抱いていた。 世界には、いろいろな音楽や楽器があることに気づいた。
二 (三時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「ケチャ」を鑑賞する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> LD での鑑賞。 教科書掲載のケチャの学習。(「ケチャ」のリズム) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ケチャ」の映像におもしろさを感じ、何度も見せてほしいと話してきた。 LD 鑑賞後は、意欲的に「ケチャ」に取り組んだ。
	<ul style="list-style-type: none"> 「ケチャ」の表現を楽しむ。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> パートごとに場所分け。 パートリーダーへのアドバイス表。(「小学生のためのケチャ」) 	<ul style="list-style-type: none"> 16分音符のリズムの取り方に苦労していた。 どの速さに合わせていいのか迷っていた。
	<ul style="list-style-type: none"> 「ケチャ」をしあげる。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> パート別テープの準備。 メトロノームの活用。 パート譜の準備。 実態に合わせた楽譜の準備。 ビデオを使用しての振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> 16分音符と休符の組み合わせから、「おチャ むぎチャ・・・」と創作して、リズムを覚えるグループがあった。 「ケチャ」を自分たちで仕上げたという喜びを感じていた。
三 (二時間)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の楽器「箏」の演奏を鑑賞する(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャー(4人)のミニコンサート。 子どもに合わせたプログラム。 十七絃の箏と三味線の披露。 	<ul style="list-style-type: none"> 目の前での生演奏の迫力が伝わり、箏への興味関心が増した。 ディズニーメドレーなど、日本の曲以外にも箏で演奏できることに驚いていた。 めずらしい十七絃の箏や三味線も見せていただき、箏以外の日本の楽器への理解を深めることができた。
四 (三時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらさくら」を演奏する(1) 	<ul style="list-style-type: none"> NEO-KOTO 16面用意。 ゲストティーチャー(2人)に調弦と爪あわせ、指導を依頼。 紙の箏。 	<ul style="list-style-type: none"> 2人に一面の箏を準備したので、しっかり練習できていた。 ゲストティーチャーから、手の動きや置き方を習い、きれいな姿勢で演奏できた。 空いた時間を利用して、紙の箏で練習をしていた。
	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらさくら」を演奏する(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 主旋律の練習と伴奏の工夫。 音色の違いを感じるように、ゲストティーチャーへの演奏の依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな弾き方を利用して、楽譜の2拍分の部分を創作した。(グリッサンド・ピチカート・つき色など) 弾く場所を龍角から遠ざけると音色が柔らかくなることに気づくことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらさくら」のミニ発表会をする(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の前での発表会。 	<ul style="list-style-type: none"> 人前で発表することに、緊張していた様子だったが、大きな拍手をもらって満足そうだった。